

2022年5月27日

各 位

日本軽金属株式会社

雨畑地区土砂対策第4回フォローアップ検討会の実施について

日本軽金属株式会社（代表取締役社長：岡本 一郎、本社：東京都港区、以下：弊社）は4月27日に雨畑地区土砂対策第4回フォローアップ検討会を国土交通省、山梨県、早川町と実施いたしましたので、お知らせします。

弊社が保有する雨畑ダム（山梨県南巨摩郡早川町）について、2019年8月9日付で国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所より、雨畑ダムの定期検査結果に関する行政指導を受けました。また、2019年8月の台風10号・同年10月の台風19号などによる豪雨の影響を受け雨畑ダム上流の雨畑川の水位が上昇したことにより周辺地域で浸水被害が発生しました。

弊社は2019年9月に国土交通省、山梨県、早川町とともに雨畑地区土砂対策検討会を設立し、周辺地域における浸水被害発生に対する応急対策、及び堆積土砂の抜本対策について検討を重ねたうえで取り纏めました雨畑ダム堆砂対策基本計画書を2020年4月30日に提出いたしました。

今回の第4回フォローアップ検討会では、2020～21年度の短期計画の実施状況と2022～24年度の中期計画の実施内容について報告いたしました。中期計画を進めるにあたっては、新たな搬出の候補地について探索を継続してまいります。

弊社は、今後も地域の安全確保を最優先とし、雨畑ダム堆砂対策基本計画書に基づき、関係する皆様のご協力もいただきながら、計画を着実に実行してまいります。

（添付資料 計4枚）

本件に関するお問い合わせ：

日本軽金属株式会社 蒲原製造所総務課 TEL：054-385-2111

日本軽金属株式会社 広報室 TEL：03-6810-7160

以上

1. フォローアップ検討会について



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.

➤これまでの雨畑ダム堆砂対策に係る検討会の経緯

- 過去からのダム定期検査の指摘に加え、台風被災を契機に行政より指導があり雨畑地区土砂対策検討会を設立し、合意内容を基に雨畑ダム堆砂対策基本計画を2020年4月30日に提出済み。
- 計画の進捗についてフォローアップ検討会を第1回2020年6月11日、第2回同年11月26日、第3回2021年6月4日に開催した。

➤第3回までの主な指摘事項

- 堆砂対策については洪水が安全に流下可能な河道を確保すると共に掘削計画を作成し、環境に配慮しながら継続的にすすめること。
- 土砂運搬時の安全な運行につとめること。
- 骨材や造成などの搬出先の確保につとめること。



実施状況を適切に把握し、改善点などに対応すべく、
第4回フォローアップ検討会を2022年4月27日に開催した。

1

2. 短期計画の実施状況



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.

項目	実施内容	実施状況
期間	2020年度～2021年度	・ 予定期間にて短期計画を実施
目標	・ 本村地区の浸水・土石流被害の解消	・ 2019年台風19号規模の出水に対し、本村地区に浸水・土石流被害を及ぼさない河道形状を掘削・移動・搬出により確保 ・ 300万㎡の土砂を移動・搬出
内容	応急対策 ① 仮設堤防の建設 ② 河道の確保 ③ 湖内整備・湖内仮置	・ 本村地区の浸水被害防止に仮設堤防を建設 ・ 2019年台風19号規模の出水に対応する河道を確保（掘削・移動） ・ 既設構造物や河岸道路の保護、仮置場造成、保護盛土等掘削土砂を一時的に湖内仮置場に仮置
	抜本的対策 ① 搬出能力の増強 A) ベルトコンベアの増強 B) 雨畑川運搬路の造成 C) 早川運搬路の造成 ② 土砂の活用 A) 骨材資源としての利用 B) 雨畑川運搬路への活用 C) 早川運搬路への活用 D) 土砂処分地の確保 (造成用盛土等への活用) ③ 継続的堆砂対策の検討	・ ロトラックの導入やコンベアラインの追加により所定の能力を達成 ・ 雨畑川運搬路の建設、早川運搬路設置工事に着手 ・ 骨材資源、ダム下流の運搬道路の造成等に土砂活用（搬出） ・ 河道確保（移動・搬出）計画や中期計画へ移行等について継続的に検討

2

3. 短期計画の実施状況



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.

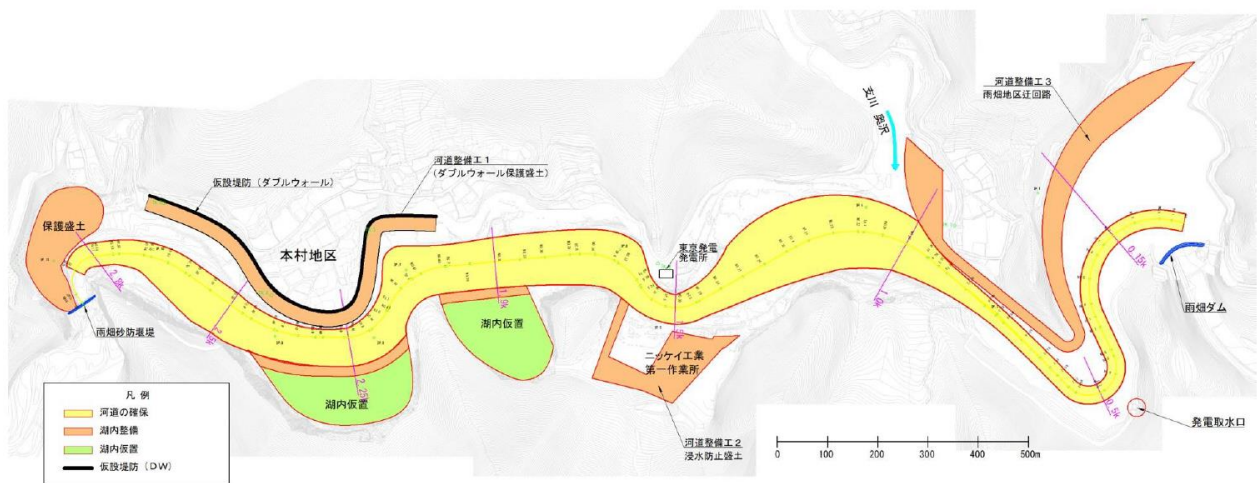
		2020年度		2021年度	
		計画	実績	計画	実績
応急対策	・仮設堤防等 ・河道の確保 ・湖内整備・湖内仮置	80万㎡	92万㎡	60万㎡	50万㎡ (完了)
抜本的対策	・骨材資源 ・運搬道路 ・造成地	70万㎡	73万㎡	90万㎡	85万㎡ (完了)
計 (掘削量)		150万㎡	165万㎡	150万㎡	135万㎡
実績累計		165万㎡		300万㎡	

3

4. 短期計画の実施状況



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.



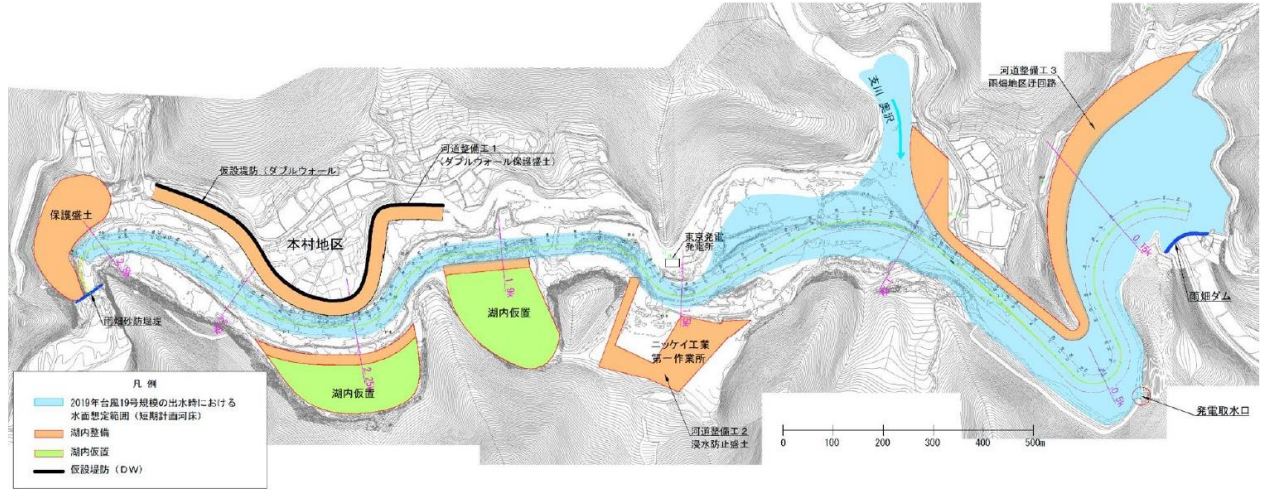
短期完了時 平面図

4

5. 短期計画の実施状況



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.



2019年台風19号規模の出水時における水面想定範囲 (短期計画河床)

6. 中期計画の実施内容



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.

項目		実施内容
期間		• 2022年度～2024年度
目標		• 過去最大規模の土砂流入に備えた容量確保
内容	河道の確保	<ul style="list-style-type: none"> • 過去最大規模の土砂流入に備えた河道断面を確保するため、短期計画河床から更に約210万m^3の容量確保 • 毎年の出水による流入土砂分は移動・仮置きし、速やかに河道断面を復旧 • 流入土砂分の仮置場として、現状の仮置場にある土砂約100万m^3を撤去
	土砂の活用	<ul style="list-style-type: none"> • 骨材資源としての堆積土砂を活用 (短期での実績を踏まえ、30万m^3/年程度の活用を想定) • 引き続き、骨材需要の拡充に向けた調整を行い、需要の状況に応じて、実施内容を適宜見直し
	土砂の活用	<ul style="list-style-type: none"> • 土砂処分候補地の盛土造成、早川運搬路等の造成に堆積土砂を活用 • 引き続き、広域的ニーズに応じた造成用盛土等への活用の検討を行い、関係機関等との調整状況に応じて、実施内容を適宜見直し
	継続的堆砂対策の検討及び実施	<ul style="list-style-type: none"> • 長期計画の目標 (安全な堆砂状態の維持) の達成に向けた恒久堆砂対策を検討

7. 中期計画の実施内容の考え方

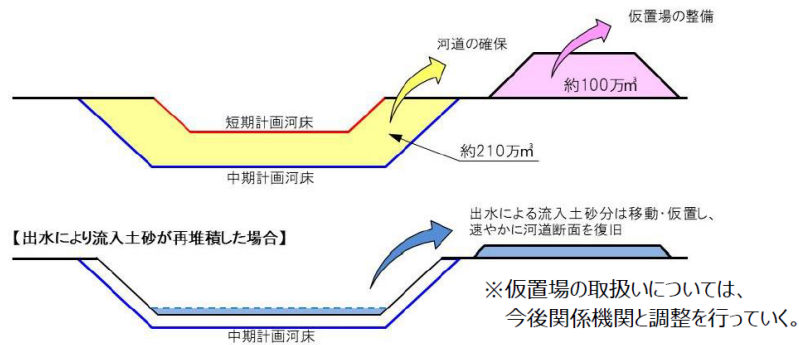


NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.

【過去最大規模の土砂流入に備えた容量確保、堆積土砂撤去の考え方について】

- 昭和57,58年に発生した過去最大規模の土砂が流入しても、本村地区に浸水被害を及ぼさない河道断面を確保するため、短期計画河床から更に約210万 m^3 の容量確保
- 毎年の出水による流入土砂分は、ダム貯水池内に移動・仮置きし、速やかに河道断面を復旧
- 流入土砂分の仮置場として、現状の仮置場にある土砂約100万 m^3 を撤去

➡ 3ヶ年で約300～400万 m^3 の土砂を撤去（ダム下流へ運搬）

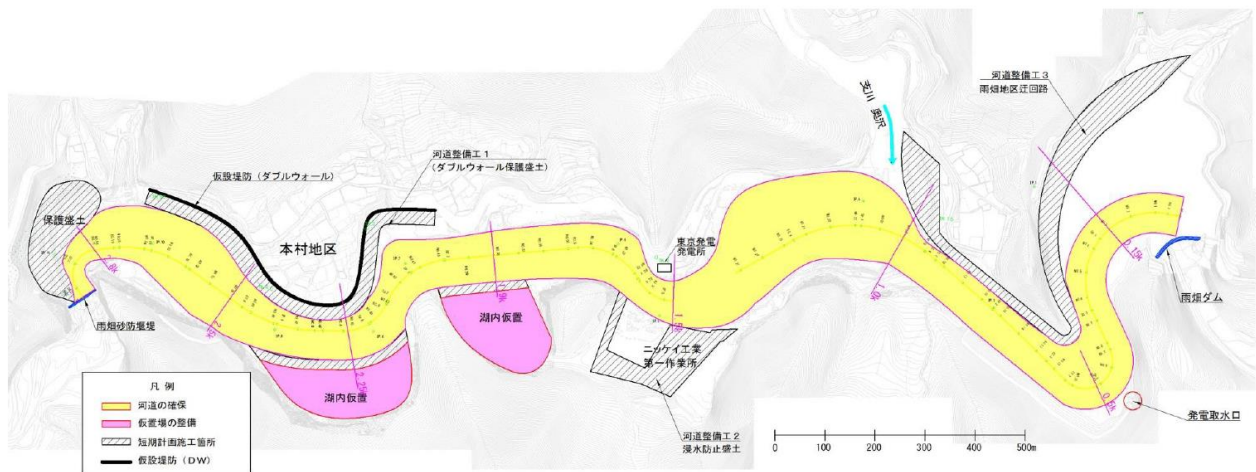


7

8. 中期計画の実施内容



NIPPON LIGHT METAL COMPANY, LTD.



中期計画 平面図

8